

8 外国につながるのがある生徒のために

ワーク 1

表1は神奈川県内の外国人数の推移を、表2は神奈川県内の外国人数の上位5カ国を表したものです。

(1) 表1から読み取れることをグループで話し合い、その内容を書きましょう。

表1

年 度	1985	1990	1995	2000	2005	2006	2007
人 数	47,279	77,351	104,882	123,179	157,947	160,600	167,601
増 減		30,072	27,531	18,297	34,768	2,653	7,001

年 度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
人 数	174,352	175,014	171,439	167,893	161,155	160,605	166,006
増 減	6,751	662	-3,575	-3,546		-550	5,401

* 2012年度までは12月31日現在、2013年度以降は1月1日現在のデータ

* 2011年度までは外国人登録法に基づく外国人登録者数、2012年度以降は住民基本台帳上の外国人数

(2) 表2の()内に予想される国・地域名と、その国・地域で話される主要言語を、グループで話し合い、書いてみましょう。

表2

	国・地域	人 数	外国人構成比	主 要 言 語
1位	()	54,520人	32.8%	()語
2位	()	29,355人	17.7%	()語
3位	()	18,482人	11.1%	()語
4位	()	8,532人	5.1%	()語
5位	()	7,864人	4.7%	()語

「県内外国人統計(外国人登録者統計)」神奈川県県民局くらし県民部国際課(平成27年1月1日現在)より

ワーク 2

次の生徒2人の会話を読み、質問に答えましょう。

A：ねえ、知ってる？ 明日うちのクラスに留学生が来るらしいよ。

B：本当に？

A：しかも、私たちの席の近くに座るんだって！

B：えっ!?! うまくやっていけるかな…。

A：それは不安なこともあると思うけど、でもいろいろ楽しそうじゃない？

B：う～ん…。

(1) Bさんが不安に思っていることを考え、書きましょう。

(2) Aさんが楽しみだと思っていることを考え、書きましょう。

(3) 留学生自身はどのように思っているでしょうか。楽しみだと思っていること、不安に思っていることの両方を書き出してみましょう。

ワーク 3

学校生活において、留学生が「困ってしまいそうなこと」、それに対して「あなたができること」を時間ごとに話し合い、書き込みましょう。

日 程 表	困ってしまいそうなこと	あなたができること
・登校時		
8:40 HR		
8:50 日本史 A		
9:50 音楽 I (移動教室)		
11:50 コミュニケーション英語 I		
12:40 昼休み		
13:25 体育		
14:25 数学 I		
15:30 放課後		
・部活動		
・文化祭準備		
・下校時など		

ワーク 4

ワーク3を踏まえ、留学生とクラス全体の双方が充実した学校生活を送るために、どのような点に気を付けるべきか、グループで話し合ってください。

ワーク 5

今日の学習を通して、学んだことや考えたことを書きましよう。

解説 8 外国につながるのある生徒のために

1 ねらい

近年、神奈川県内では外国につながるのある生徒が増え、また、その国籍や出身地も様々であり、それぞれのニーズに合った支援が必要だと考えられる。このワークではまず、県内の外国人の現状を知り、クラスに外国につながるのある生徒がいたときに、相手の困り感や気持ちを積極的に理解したり配慮したりすることの大切さを考えさせたい。また、それらを踏まえた上で個人として、あるいはクラス全体としての両方の視点から具体的にできる支援にはどんなことがあるか考えさせたい。

2 進め方

展開例（50分 3～4人のグループを作る）

学習活動	指導上の留意点
1 ワーク1 (20分)	
① 過去30年の外国人数の増減を見て、その理由などを話し合い、意見をまとめ、書き込む。(1)	○ 神奈川県内の外国人数の現状について、推移を確認しながら具体的に理解を深めるよう促す。
② グループで表2の()に当てはまる国・地域や主要言語を、理由も考えながら書き込む。(2)	○ 時間に余裕があれば、生徒の考えを聞いてもよい。
③ 解答を聞く。	○ 解説を伝える。 ○ それぞれの言語を知っているかどうか問い、外国においては日本語も同じ状況ではないかと投げかける。自分の母語を理解する人がいない不安や、異なった言語を使う国での生活の難しさを理解できるように促す。
2 ワーク2 (10分)	
① 留学生を受け入れる側として不安なことをBさんの気持ちになり書く。(1)	○ 「知らないこと」から不安になる気持ちと、新たに「知ること」への楽しみな気持ちの両方を理解するよう促す。
② 留学生を受け入れる側として楽しみなことをAさんの気持ちになり書く。(2)	
③ 留学生の気持ちになって、楽しみなことと不安なことを書く。(3)	

3 ワーク3 (10分)

- ① 日程表に沿って、それぞれの場面で留学生が困ってしまいそうなことや解決する具体的な手立てをグループで話し合い、意見をまとめ書く。

○ 具体的なことだけでなく、学校生活全体にわたる広い視野でも考えるよう促す。

4 ワーク4 (5分)

- ① 個人やクラス全体でどのようなサポートができるかをグループで話し合い、意見をまとめる。
② いくつかのグループが発表する。

○ 異なる文化を持つ人々を受容し、共生しようとする気持ちを持てるよう促す。

○ 各グループの話し合いの様子を把握しておき、内容が深まっているグループに発表を促す。

5 ワーク5 (5分)

- ① 全体を通じて思ったことをまとめる。

3 解説

ワーク1について

(1) 神奈川県内の外国人数

神奈川県内の外国人数の推移を見て現状を知る。法務省の調査において、神奈川県の内留外国人数は全都道府県のなかで第4位(1位 東京、2位 大阪、3位 愛知)であることなども生徒に投げかけながら、「多文化共生」の重要性を理解させたい。

普段の生活でよく見かける外国人や外国料理店、看板や標識に書かれている言語など様々な視点から神奈川県内の外国人の出身国・地域の順位を予想させる。また答えを発表した後、それぞれの国が世界のどこにあるかなどを考えさせたり、県内の外国人の国籍数は164の国・地域(平成27年1月1日現在)に及ぶことを投げかけたりしながら、国際化が進んでいることを理解させたい。

(2) 人数の多い国・地域名とその国・地域の主要言語

	国・地域	人数	外国人構成比	主要言語
1位	(中国)	54,520人	32.8%	(中国) 語
2位	(韓国・朝鮮)	29,355人	17.7%	(韓国・朝鮮) 語

3位	(フィリピン)	18,482 人	11.1%	(フィリピン・英語) 語
4位	(ベトナム)	8,532 人	5.1%	(ベトナム) 語
5位	(ブラジル)	7,864 人	4.7%	(ポルトガル) 語

ワーク 2 について

「知らない」と「不安」

先入観やイメージ、「ただ知らないだけ」といった根拠のない不安は相手を知れば解決することができることを理解させたい。

自分の知らない国や文化・習慣について知ること、また自分の国や文化・習慣について相手に知ってもらうことの楽しさを考えさせ、不安であった点は楽しみの入り口であることを理解させたい。

ワーク 3、4 について

文化と文化で歩み寄る

自分がある日、外国の学校に留学することになったときにどう思うかという視点で想像をさせてみる。また、具体的な例として、日本に住んでいて、日常生活では日本語が話している「外国につながりがある生徒」でも、日本語を学ぶ機会が少なく、学習言語を獲得するのに5～7年ぐらにかかることから、学習に用いる言語は苦手で、周囲からは「日本語ができるのに、勉強は得意じゃないのはなぜだろう」と思われてしまう。「日本語の曖昧な表現がわからない」などの言語的な問題や、「食べてはいけないものがある」「肌を露出するため、水泳の授業での服装に困ってしまう」などの宗教上の理由、「学習に取り組む姿勢」や「部活動の有無」など、学校というものの捉え方そのものの違いも考えられる。こういう違いを伝えながら、相手の立場になったり気持ちに寄り添ったりして考えることが、お互いを分かり合う上でとても重要であることを理解させたい。

〈引用文献〉

「県内外国人統計（外国人登録者統計）」 神奈川県県民局くらし県民部国際課（平成27年1月1日現在）

〈参考資料〉

「在留外国人統計（旧登録外国人統計）統計表」 法務省入国管理局（平成27年6月末現在）